



聴覚相談センターでは、県内の聴覚障害児の来年度の就学に関する相談に対応しております。その相談内容は様々です。先日、就学前の一側性難聴のお子さんについて相談がありました。

一側性難聴児に対しては難聴耳に対する補聴器装用の選択を保護者に委ねられることが多いようです。御相談のケースは補聴器を装用していないとのこと、片耳に「きこえにくさ」があることは周囲にわかりにくい状況と思われます。障害認識の視点から言うと、年長の段階で「自分は右（又は左）の耳がきこえにくいので左（又は右）側から話してください」と言えるくらいの育ちが確認できたらいいですね。小学校に入学し学習を進めるにあたっては、座席配置を含めた環境の配慮も必須となります。合わせて、自分のきこえにくさを認識し、自ら対応する力の育ちも不可欠です。ここ数年、一側性難聴の相談件数が増えてきています。今回は、【一側性難聴の理解と対応】について記載します。是非お読みいただき参考にさせていただけたら幸いです。

一側性難聴の理解と対応

一側性難聴とは？	・ 片耳は正常だが反対の耳に難聴がある状態。かたしなんちょう片耳難聴とよばれることもある。 ・ 生まれつきの場合もあるが、遅発性や進行性で一側性難聴と診断される場合もある。
一側性難聴による影響	・ 難聴耳側の聞き取りにくさ、雑音下の聞き取り低下、音方向のとりにくさがある。
言語発達に関して	・ 個人差が大きく聴児と変わりないとする報告がある一方で、幼児期に2語文の発語が平均5か月ほど遅れる、学童期で30～40%の言語発達の遅れがみられるという報告もある。（必要な支援・配慮を受けなかったことに起因すると予想される。）
聞こえに関する配慮	・ 通学時、道路を歩く時は、聞こえやすい耳が道路側になるようにする。 ・ 雑音制御（椅子にテニスボールなど）を行い、教室環境を整える。 ・ 座席の配慮（聞こえやすい耳が話し手を向くようにし、前から2～3列目）をする。 ・ 話はじめを聞き漏らしやすいため、注目を確認してから話すようにする。 ・ 聞こえやすい耳の聴力低下に留意し、耳鼻咽喉科のかかりつけ医を決めて聴覚管理をすること。
心理面への配慮	・ 片耳が聞こえにくいことが、周囲から理解されにくい。 ・ 難聴耳側から話し掛けられても気付かないことがあり、「話を聞いていない」「無視した」と誤解されることがある。

一側性難聴には両側難聴児と同様の配慮に加えて、一側性難聴児ならではの困難さに対する配慮が必要であることが周知されています。また心理面への対応として、同じ立場で共感しあう「ピア・カウンセリング」の有用性も示唆されています。聾学校でも、令和2年度から『一側性難聴のつどい』を年数回、開催しております。今年度、12月11日（水）10:00～12:00／2月26日（水）10:00～12:00に開催予定です。参加希望の方は、聴覚相談センターまで御連絡ください。

※ 参考：片耳難聴者のコミュニティサイト「きこいろ」…たくさん情報発信されています！

鹿児島県立鹿児島聾学校

代表 TEL 099-228-2200 FAX 099-228-2211

聴覚相談センター（外園）

【直通】TEL 099-228-2300 FAX 099-228-2311

お気軽に ご相談ください(^_-)-☆

★ 相談は無料です。

★ 相談内容に関する秘密は厳守します。

★ 全ての支援事業は聾学校への就学を勧めるものではありません。